



## 1. 血管平滑筋異常収縮の制御機構の解明

## 2. 暑熱馴化の神経基盤と熱中症予防法の解明

医学部 教授 岸 博子  
講師 松崎 健太郎

1. 血管平滑筋は血管壁を構成し、収縮・弛緩を繰り返して血圧調節に重要な役割を果たす。血管平滑筋収縮制御機構が破綻すると、高血圧、血管攣縮などの病気を引き起こす。血圧調節に必要な正常収縮と病的な血管攣縮を引き起こす異常収縮では、細胞内カルシウムイオンの動態や収縮制御タンパク質のふるまい方が異なる。我々は、血管異常収縮のシグナル伝達に中間径フィラメントやタンパク質分解酵素が関与する事を明らかにし、これらが収縮制御タンパク質の活性化に与える影響について、解析を進めている。

2. 夏季の熱中症が深刻な社会問題になっている。持続的な運動トレーニングや暑熱環境への曝露により形成される暑熱馴化は熱中症の予防法として有望視されているが、その形成機序には不明な点が多い。我々は、暑熱馴化の神経基盤と熱中症予防法の確立を目指し、視床下部の機能変化について解析している。

